

^{うま}
「**美し国おこし・三重**」

基本構想(案)

平成19年11月

三 重 県

「^{うま}美し国」

文献では、「日本書紀」巻六 垂仁天皇25年3月の条、天照大神の祭祀（天照大神をお祀りする宮地を探す）を倭姫命に託した次の一節に初見されます。

【日本書紀原文】

是神風伊勢国則常世之浪重浪帰国也、傍国^{うましくに}可怜国也。欲居是国。

【意味】

この神風の伊勢国は、常世の波がしきりに打ち寄せる国である。大和の傍^{がたか}らにある国で、美しいよい国である。この国におりたいと思う。（と伊勢の地まで来られた倭姫命に天照大神が告げられました。）

〔参考：県史 Q&A（県文化振興室県史編さんグループ ホームページ）〕

なお、「^{うま}美し国」という言葉には、伊勢国が永久の理想郷とされる「常世」に隣接する、「心の満たされる地である」という意味も含まれていると言われています。

つまり、「^{うま}美し国」とは、海や山の自然に恵まれ、また、心が満たされる、まさに、人が暮らすのに「理想的な地域」であると言えるのではないのでしょうか。

1 基本理念

人と人、人と地域、人と自然の“絆”を紡ぎ上げ、神話や伝説に語り継がれるにふさわしい「^{うま}美し国 三重」をつくりまします。

私たち日本人の暮らし、生き方の原点を見つめ直すことで、人と人、人と地域、人と自然の関係を創り上げ、自立・持続可能な地域づくり～^{うま}美し国おこし～を進めます。そして、地域づくりのさまざまな取組や活動、その成果をイベントを通じて、全国、世界に発信していきます。

三重は海や山の豊かな自然に恵まれ、人が暮らすのに理想的な地域として、古くから「^{うま}美し国」と呼ばれてきました。また、日本人の精神文化・生活文化の源流ともいえる「伊勢」、「熊野」を有し、「こころのふるさと」として、人々を魅了し、多くの人々が三重の地を訪れました。さまざまな街道や海の道を通した、諸国との文化や情報の交流は、三重の各地に豊かな文芸・芸術や産業を育み、それらは、また、全国に発信されていきました。

太陽と月と大地、そして、それらがもたらす山の幸・海の幸・野の幸への感謝、自然と共に生きてきた日本人の暮らしの原点を今に伝える歴史的・文化的資産の存在。また、その感謝の気持ちを「おかげさま」という端的な言葉で暮らしの中に受け継いできた人々。まさに三重は、人と人、人と地域、人と自然の“絆”が保たれてきた地であると言えます。

今、世界に目を向けると、グローバル化の進展による地球規模での経済競争の激化、環境問題の深刻化など、時代は大きな転換期を迎えています。

私たちの身近な地域にあっても、これまで経済性や効率性を求めすぎた結果、地域の特色や独自性が失われ、住民が地域への誇りや愛着を見失いつつあり、さまざまな“絆”が薄れてきています。

このような中で、私たちは“ものの豊かさ”だけでは幸せになれないことに気がつき、“こころの豊かさ”を求める動きが広がってきています。

今まさに、人と人、人と地域、人と自然の“絆”をもう一度見つめ直し、住む人も、訪れる人も、本当の“豊かさ”や“しあわせ”を感じることができる地域社会を築くため、一人ひとりが行動を起こす時ではないでしょうか。

折しも、今、三重では、古式に則り二十年毎に社殿や御装束^{おんしょうぞく}神宝を新調して行われる神宮式年遷宮の諸祭行事が進められています。心のつながりや自然を大切にする暮らしのあり様を私たちに気づかせてくれる、これらの行事が行われている今こそ、これまでの経済や効率優先の暮らしの中で失われてきたもの、埋もれてしまったものに、今一度、光をあてる絶好の機会ではないかと考えます。

「造化（自然）にしたがひ、造化（自然）にかへれ」（松尾芭蕉「笈の小文」より）

私たちは、この機会を捉え、先人たちが自然と共に生きる中で培ってきた日本人の情緒や感性を見つめ直し、地域の中で育まれてきた特色ある資源や創意工夫を生かすとともに、地域内外の交流・連携を促進することにより、自立・持続可能な地域づくりに取り組むこととします。加えて、私たちの暮らしに密接に関わる主要なテーマについては、全県あげて取り組みます。

「^{うま}美し国おこし」のさまざまな取組や活動、その成果をイベントを通じて、全国、世界に発信していきます。

三重の未来に、いにしへの「^{うま}美し国」の理想を夢みる人々、
本当の“豊かさ”や“しあわせ”を感じることが出来る地域社会をつくりたいと志す人々、
その夢と志に共感する全国、世界の有志・有識とともに、
今こそ、「^{うま}美し国おこし」を始めよう。

人と人、人と地域、人と自然の力強い“絆”の復活を目指して。

2 コンセプト

「文化力」を生かした持続する地域づくり

3 名称

^{うま}美し国おこし・三重

4 テーマ

めぐる つむぐ はぐくむ ^{とこわか}常若の三重

※ 「文化力」、「つむぐ」、「常若」の注釈については、8ページに記載しています。

5 基本方針

①地域の個性や文化にこだわります。

- ・ 「^{うま}「^{うま}美し国おこし・三重」では、地域資源の持つ多面的な価値に着目し、独自性のある地域づくりを進めます。
- ・ 他にはない地域の魅力・価値を高めることにより、「^{うま}「^{うま}美し国おこし・三重」終了後も引き続く、自立・持続可能な地域づくりにつなげていきます。

②“私たちの暮らしの場” そのものが舞台です。

- ・ 「^{うま}「^{うま}美し国おこし・三重」では、古くから祭りが、“絆”に支えられた暮らしの中で自ずと行われてきたように、“絆”をもう一度見つめ直すこととします。
そのため、地域と地域の連携、人と人との交流を大切に、県内全域を対象に、私たちの日常の暮らしの場そのものを舞台として展開していきます。

③住む人、訪れる人、みんなが主役です。

- ・ 「^{うま}「^{うま}美し国おこし・三重」では、県民の皆さんが自分たちの地域のことを自発的・主体的に考え取り組むこととします。そのことを通して、地域の担い手づくりを進めます。
また、三重を訪れる人たちとの交流や連携を通して、^{うま}「^{うま}美し国を共につくり上げていきます。

④目的を共有し、取組の成果を検証します。

- ・ 「^{うま}「^{うま}美し国おこし・三重」では、それぞれの取組に携わる方が目的を共有し、その取組の成果を検証することにより、その後の地域づくりの継続・発展につなげていきます。

⑤新たなイベントのスタイルを創造します。

- ・ 「^{うま}「^{うま}美し国おこし・三重」では、従来、一過性のものと捉えられがちであったイベントを、取組の企画から準備に至る過程、活動の発表、その後の成果の継承を含む一連の取組すべてを表すものと捉えます。
- ・ 暮らしに密接に関わる主要なテーマについては、全県的な取組につなげていきます。
- ・ 長期に亘る「^{うま}「^{うま}美し国おこし・三重」の取組を通して、「新しい時代の^{おおやけ}「公」^公」を推進していきます。

6 構成と展開

(1) 構成

「^{うま}美し国おこし・三重」は、「それぞれの地域の個性を生かした取組」と「『^{うま}美し国 三重』が共有する理念に基づいた取組」という2つの継続する取組に加え、「^{うま}美し国おこしのオープニング」や「集大成イベント」などの「効果的な情報発信の取組」の3つの取組により、構成します。

構成① それぞれの地域の個性を生かした取組

- ・ 人と人、人と地域、人と自然の“絆”豊かな地域づくりは、私たちの住んでいる地域に誇りと愛着を感じることから始まります。そのため、地域について学び、課題や将来を語る場づくりや地域資源を掘り起こす取組を進め、「地域での^{うま}美し国おこし」の成果を示します。
なお、複数の市・町に跨る広域的な地域づくりも重要であると考えます。

構成② 「^{うま}美し国 三重」が共有する理念に基づいた取組

- ・ 伊勢や熊野との関わりの中で培われてきた、自然との共生、循環・再生の考え方を始めとする日本人が大切にしてきた感性や本当の豊かさのあり方について、三重の地から国内外に提案します。
- ・ 例えば景観形成や森づくり、環境問題への取組など、私たちの生活の質を高め、本物をめざす取組をテーマごとに全県的に進めます。

構成③ 効果的な情報発信の取組

- ・ 長期に亘る「^{うま}美し国おこし・三重」の期間を通して、一連の取組を広く国内外に情報発信していきます。
- ・ また、期間中の節目には、「^{うま}美し国おこしのオープニング」や「集大成イベント」などの情報発信力の強い取組を行います。

(2) 展開

- ・ 「^{うま}美し国おこし・三重」の一連の取組は、2007年（平成19年）の基本構想の検討に始まり、2014年（平成26年）の「集大成イベント」までを取組期間として展開します。2015年（平成27年）以降は、それらの取組の成果を生かした自立・持続可能な地域づくりにつなげていきます。

展開スケジュールは、おおよそ次のようになります。

2007～2008年（平成19～20年）

^{うま}美し国おこしの準備

基本計画・実施計画等の策定を進めるとともに、地域のキーパーソン探し等、^{うま}美し国おこしの準備を進めます。

2009年（平成21年）

^{うま}美し国おこしのオープニング

- ア 開催期間 : 7月～11月の間で期間を定めて実施
- イ 実施主体 : 推進組織等
- ウ 特徴 : ○ 推進組織が中心となって、発信力のある催し物や式典など、2014年まで続く「^{うま}美し国おこし」のキックオフを行い、今後の取組の方向性を示すとともに期待感を高揚させます。
- 県内の地域においては、2014年に向けて、国内外からの幅広い集客をめざすため、「交流」をキーとした地域づくりの取組を展開します。
- 開催内容は、「^{うま}美し国おこしのオープニング」にふさわしいものとしします。

2010～2013年（平成22～25年）

①地域での^{うま}美し国おこし

- ア 開催期間 : 推進組織と市・町の間において、より効果が高まるよう調整
- イ 実施主体 : 市・町（複数の市・町に跨る場合も含む）を中心とする地域における多様な主体
- ウ 特徴 : ○ 県内それぞれの地域において、皆さんが連携、協力して、特色を生かした地域づくりに取り組み、その成果を示します。
- そして、その取組をバージョンアップさせ、2014年の「^{うま}美し国おこしの集大成イベント」につなげます。
- それぞれの地域では、市・町が中心となり、既存の交流施設などを活用した、情報の受発信や幅広い集客・交流を進めます。
- 推進組織は、統一的な情報発信や宣伝誘客、実験的な取組などを進め、全体としての付加価値を高めます。

②テーマに基づき全県的に取り組む^{うま}美し国おこし

- ア 開催期間 : テーマごとに、より効果の高い時期を設定
- イ 実施主体 : 推進組織とテーマに関連する多様な主体が連携して実施

- ウ 特 徴 : ○ 私たちの暮らしに密接に関わるテーマ、例えば、景観形成や森づくり、環境問題への取組など、多様な主体の取組を全県的に盛り上げていきます。
- これらの取組を全県的に進める機運を醸成するため、会議やシンポジウム等を積極的に開催し、幅広い参画をめざします。

2014年(平成26年)

うま 美し国おこしの集大成イベント

ア 開催期間 : 3ヶ月から半年間程度

イ 実施主体 : 推進組織

- ウ 特 徴 : ○ これまでに行ってきた取組の成果を集約し、「うま 美し国おこしの集大成イベント」を実施します。
- 2007年から行ってきた取組の集大成にふさわしいセレモニーを実施します。
- 国内外からの幅広い集客をめざします。

2015年(平成27年)以降

自立・持続可能な地域づくり

「うま 美し国おこし」の成果を生かして、自立・持続可能な地域づくりにつなげていきます。

7 情報発信の対象

- ① 地域づくりの主役である県民の方に一人でも多く、「うま 美し国おこし」の考え方について共感いただき、取組に参画していただくため、主たる情報発信先は県民の皆さんと考えます。
- ② 住む人と訪れる人の交流を活性化させ、地域づくりを促進するため、国内外にも幅広く発信します。

8 同時期開催の大規模イベント等との連携

期間中に県内で実施される、県、市・町等が中心となって開催する大規模な集客力のある催し物(2009年の例:世界新体操選手権大会、全国高等学校総合文化祭など)や独自に行われる、「うま 美し国おこし・三重」のテーマに合致する既存の祭りや催し物などと連携して、三重の多様な魅力を発信し、相乗効果を生み出します。

9 推進組織

「うま 美し国おこし・三重」実行委員会
※ 2008年(平成20年)1月頃設置予定

- ・ 県、市・町、地域づくり関係者(住民、NPO等)、企業、有識者等の代表者から成る実行委員会を設立します。
- ・ 「新しい時代の^{おおやけ}公」を担う多様な主体が役割分担をし、事業を展開します。

10 事業規模

基本構想の策定後、検討状況に応じ、基本計画等に記載します。